

第5期八戸市地域福祉計画の策定に係る 市民アンケート調査 報告書【概要版】

令和8年3月

Hachinohe City

1

○ 調査の概要

1 調査の目的

次期計画の策定にあたり、市民の地域との関わりや福祉に関する意識、普段の生活における困りごとなど、地域福祉に係る現在の実態等について把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施した。

2 実施内容

- ① 対象者 市内在住の18歳以上75歳以下の市民 2,000人
- ② 調査方法 郵送配付・郵送回収（WEB回答併用）
- ③ 調査期間 令和7年7月25日～令和7年8月25日

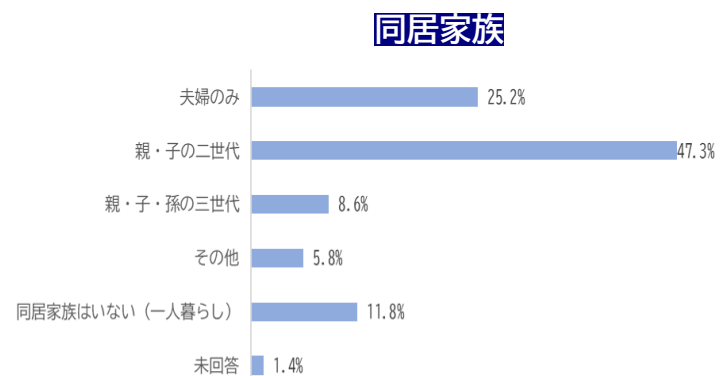
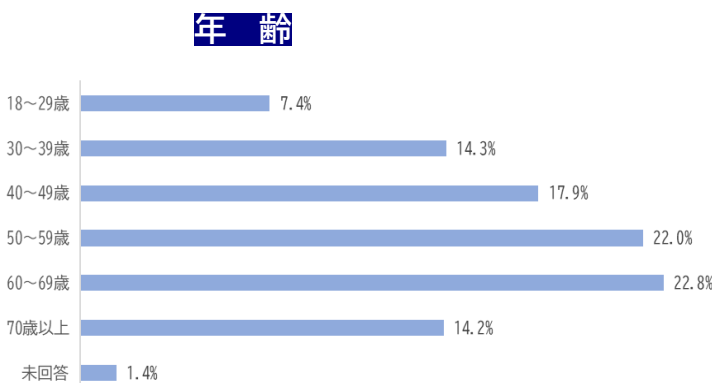
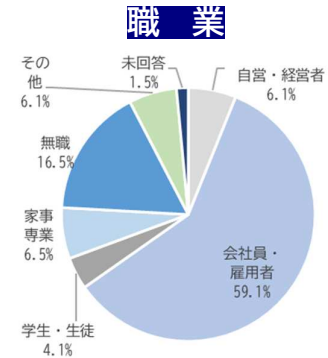
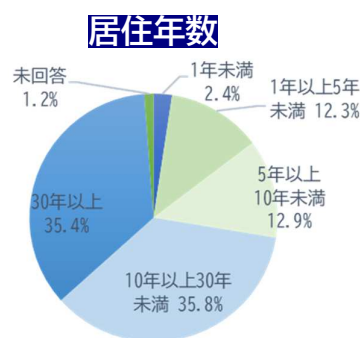
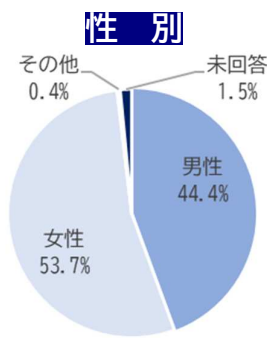
3 調査項目

- 回答者の属性（性別、年齢、同居家族の構成、居住年数、職業、情報入手方法など）
- 住まいの地域との関わりについて
- 人とのつながりについて
- 生活する上での課題について
- 地域福祉を進めるための取組について
- 自由記載

Hachinohe City

○ 調査の結果：回答者の属性

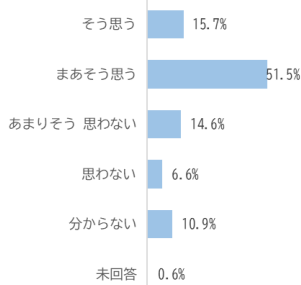
- 性別は「女性」が53.7%、「男性」が44.4%。
- 年齢は「60～69歳」、同居家族の構成は「親・子の二世帯」、居住年数は「10年以上30年未満」、職業は「会社員・雇用者」が最も高くなっている。



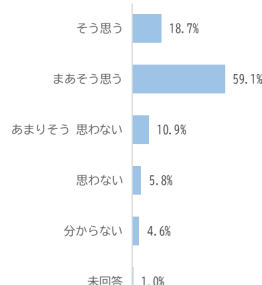
○ 調査の結果：住まいと地域との関わり①

- 「近所の人間関係が良好だと思う」割合は6割以上、「自分らしく暮らすことができていると思う」「今後も住み続けたい地域と思う」割合は7割以上を占めている。
- 一方で、住民同士の交流・助け合いやボランティア活動が「活発だと思う」割合、手助けや見守りを必要とする人への関心が「強いと思う」割合が2割程度と低い。

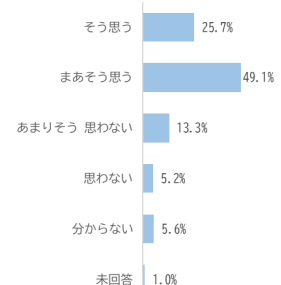
近所の人間関係は良好



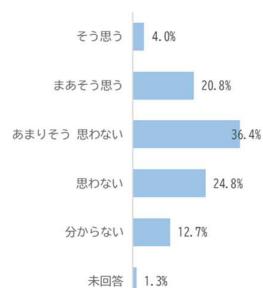
自分らしく暮らせている



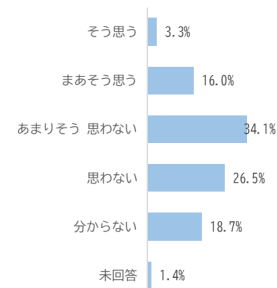
今後も住み続けたい



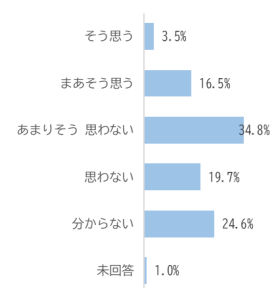
住民による交流が活発



助け合い・ボランティア活動が活発



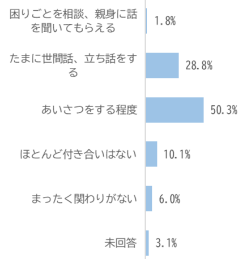
手助けや見守りが必要な人への関心が強い



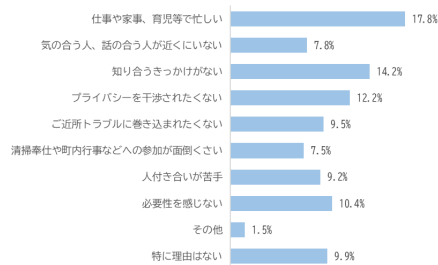
○ 調査の結果：住まいと地域との関わり②

- 近所付き合いの程度は「あいさつ程度」が5割、近所付き合いしていない理由は「仕事・家事等で忙しい」が最も多い。
- 5年間地域活動に「参加したことがない」が5割以上を占め、参加した場合でも参加して良かったことが「特にない」が多く、「時間がとられる」ため負担に感じている。

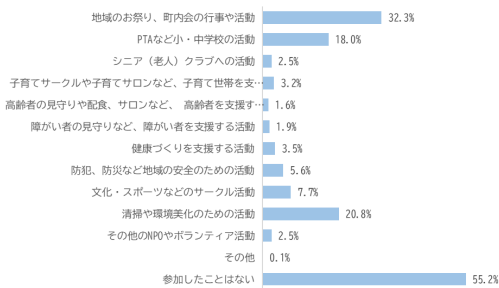
近所付き合いの状況



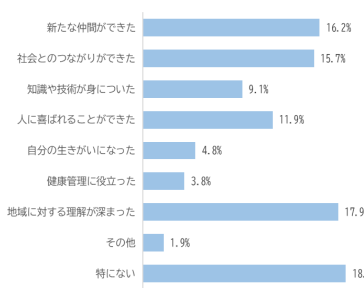
近所付き合いしていない理由



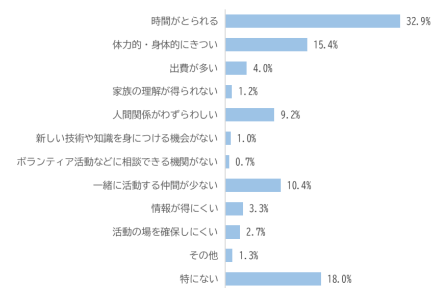
参加したことがある活動



活動に参加して良かったこと



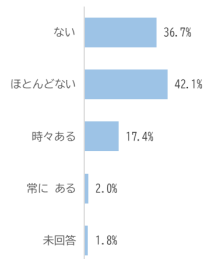
参加して負担に感じたこと



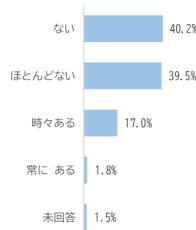
○ 調査の結果：人とのつながり

- 取り残されている・他の人たちから孤立している・孤独と感ずることが「ある」割合は、2割程度一定数みられる。
- 人とのつきあいがないと感ずることが「ある」割合は4割であるが、感染症に伴う外出自粛要請の影響は「特に感ずていない」が最も多い。

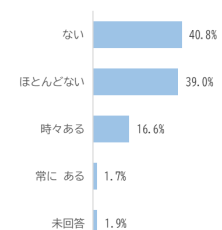
取り残されていると感ずる



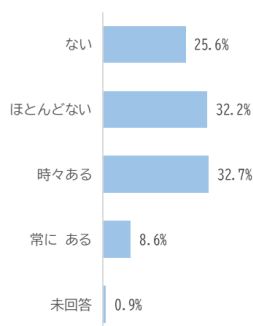
孤立していると感ずる



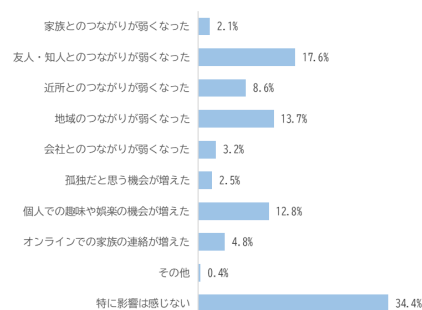
孤独と感ずる



人とのつきあいがないと感ずること



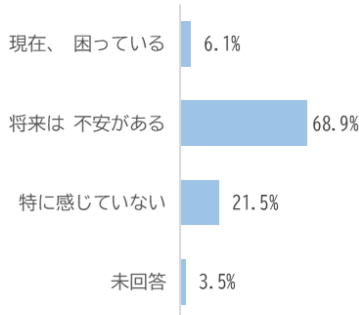
外出自粛要請による影響



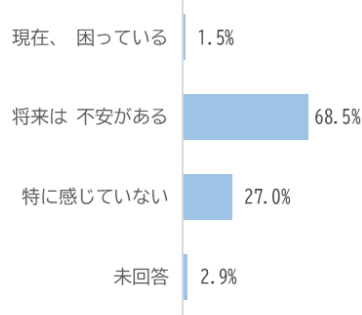
○ 調査の結果：生活する上での課題①

- 日常生活に関することで、将来は不安があることは、「自分や家族の生活」「老後の一人暮らし」「家族の世話、医療、介護」「自分や家族の病気や健康」「収入など経済面」「自然災害時の避難」があげられている。

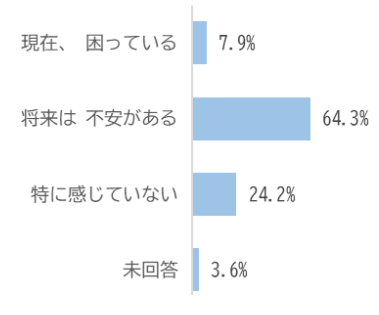
自分や家族の生活



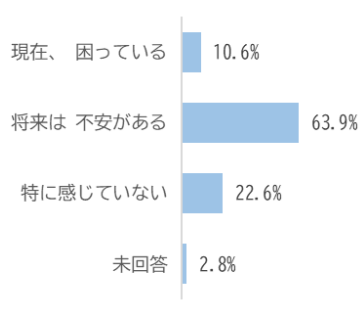
老後の一人暮らし



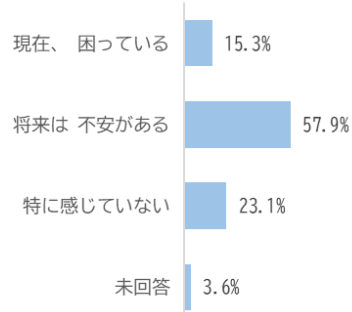
家族の世話、医療、介護



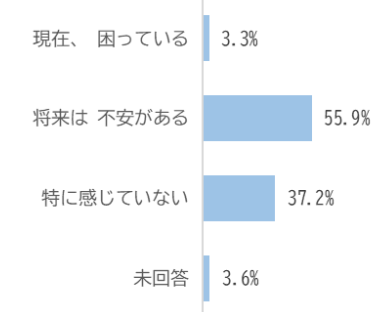
自分や家族の病気や健康



収入などの経済面



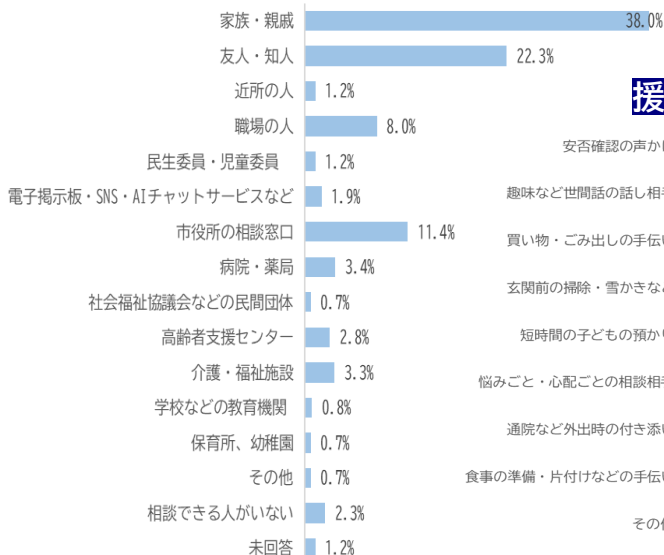
自然災害時の避難



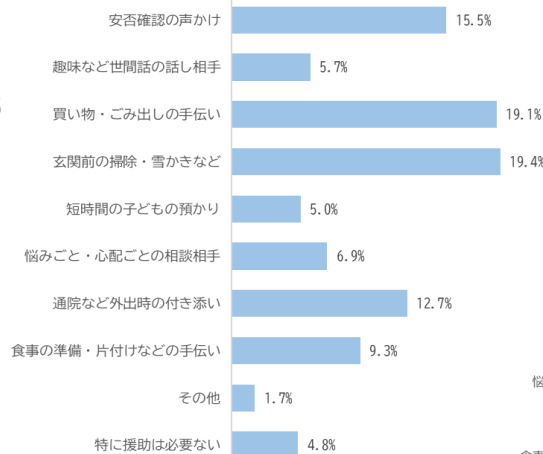
○ 調査の結果：生活する上での課題②

- 相談相手は、「家族・親戚」「友人・知人」の割合が高くなっている。
- 日常生活が不自由になったとき、地域で援助をしてほしいことでは「掃除・雪かき」、自分が手助けできることは「安否確認の声掛け」があげられている。

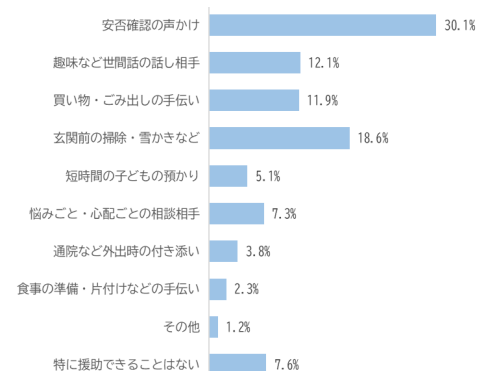
相談相手



援助をしてほしいこと



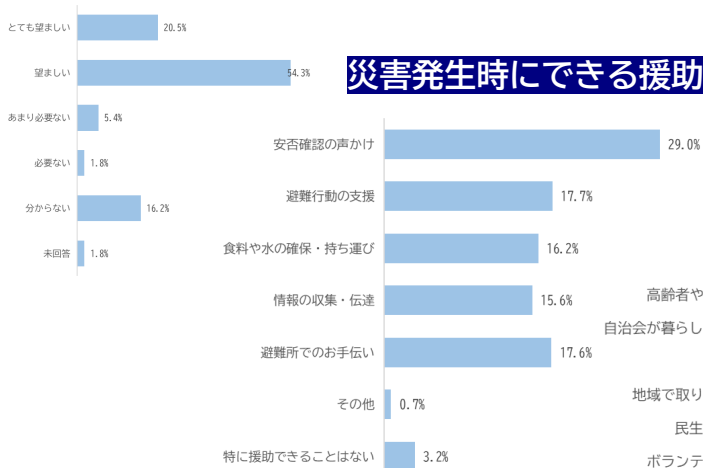
手助けできること



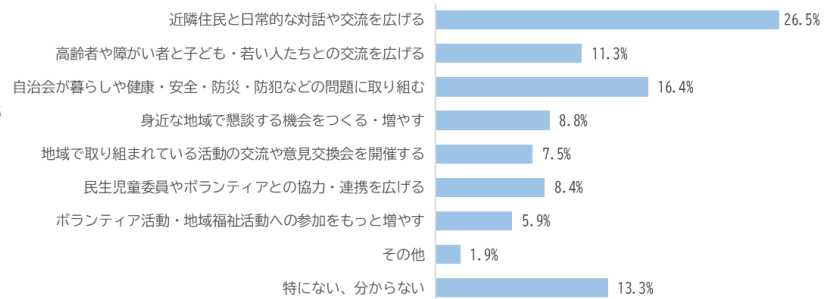
○ 調査の結果：地域福祉を進めるための取組①

- 住民同士が支え合いながら地域福祉を進めることについて「とても望ましい・望ましい」の割合が7割以上を占める。具体的に、災害発生時にできる援助として「安否確認の声掛け」「避難所でのお手伝い」があげられている。
- 安心して暮らすために住民が取り組む必要があることは「近隣住民と日常的な対話や交流を広げる」が最も多い。

住民同士の支え合い



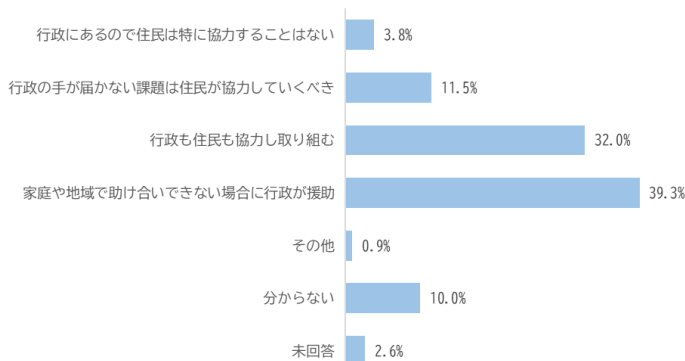
住民が取り組む必要があること



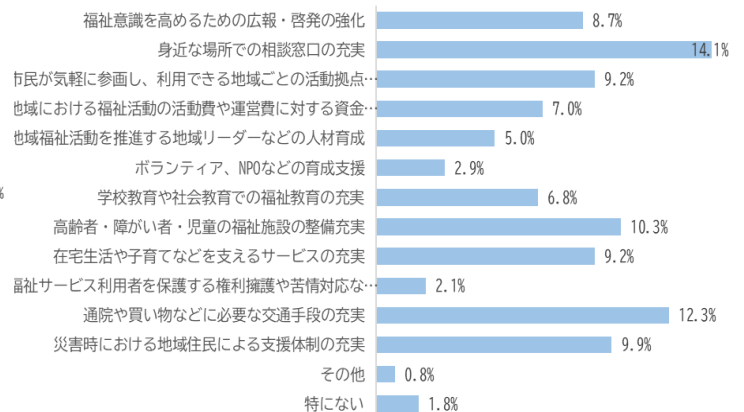
○ 調査の結果：地域福祉を進めるための取組②

- 行政と地域住民の関係は、「家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助」と考える割合が4割程度を占める。
- 行政の役割として重要なことは、「身近な場所での相談窓口の充実」が最も多い。

行政と地域住民の関係



行政の役割として重要なこと



○ 調査の結果：自由記載①

【地域コミュニティ】

- 最近は隣近所とのつき合いも希薄になってきている感じがしています。積極的に声かけ等して距離を縮めればと思いますが、なかなかできません。年を取れば、近所づきあいが最も大事なことも考えます。いざというときの助けは、やはり近所。隣り近所づき合いが大事ですね。

【防災対策】

- 災害など非常な事態が起こったとき、やはり近所同士の助け合いが不可欠だと思います。日頃から近所づきあいができるような町内会などのコミュニティが活性化できれば理想です。そのために、町内会ごとで災害訓練や避難所までの行き方確認ができればいいなと思います。高齢者、子どもたちに優しい市づくりをめざしたいです。

【高齢者支援】

- 高齢の両親や単身の兄弟が認知症のため、サポートが必要で地域の活動まで余裕がないのが現状です。そのような事情の方が多くのように思えます。介護が必要なく元気に生活出来るように予防する活動がより大事なのではないのでしょうか。一人一人の健康に対する意識の向上が必要だと思います。



○ 調査の結果：自由記載②

【子育て支援】

- 子育てしている親が孤立しない環境作り（気軽に利用出来るサービスの提供。こども食堂の普及等）。

【健康づくり】

- 少子高齢化が進み福祉や医療に係る支出が増加すると思いますが、その負担軽減のためには、各人の健康づくりが重要になると考えます。最近では運動・食生活に関する健康情報が増え、それを意識した人々が多くなっているように感じます。さらにその情報を拡大していただきたい。

【多世代交流】

- 小学校などでの福祉などの授業やボランティアへの積極的な参加活動・高齢者や障がい者の方たちとの交流、もっと当たり前地域での交流が増えることで、より住みやすく、暮らしやすい八戸市になると思う。

